



第4会場●4F 大研修室

■司 会／榎園 成人 鹿児島県始良市教育委員会社会教育課 社会教育指導員
河口聡一郎 福岡県教育庁南筑後教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

1 「待つ支援」から「届ける支援」まで母親たちが創造した
子育て支援の全方位的モデル 13:35~14:05

松崎 美穂子(徳島県徳島市) NPO法人 子育て支援ネットワークとくしま 理事長

子育てサークルから始まった徳島市の子育て支援は、20年以上の長い活動の歴史を積み上げて来た。主力は子育てサークルを卒業した母親たちや子育て中の母親。休耕田を借りて「ひろば」を作り、地域に密着した情報誌も出した。NPO設立後は、徳島市の委託を受けて、中心街に「子育てほっとスペースすきっぷ」を運営、各種の相談・交流事業を展開して、今年で12年目。現在は「待つ支援」と並行して「届ける支援」を開始。「家庭訪問型支援ホームスタート」や学校への「赤ちゃん授業」の出勤、「シルバー人材」と組んだ「シニア子育てサポーター事業」なども実施している。

2 28年の歴史が築いた0歳児からの子育て支援 14:10~14:40

岸 多津(鳥取県鳥取市) 鳥取市立賀露地区公民館 主任
岸 睦(鳥取県鳥取市) 鳥取市立賀露地区公民館 主事

「親子教室モデル地区事業」からスタートして28年、親子で参加する「乳児学級」を年間17回、「幼児学級」を22回開催している。本事業は公民館が中心となり、保健師、栄養士、主任児童委員、学級のOB・OG、地域のボランティアなどが協力し、これまでの歴史が築いた地域の人脈で担っている。乳幼児期からの子どもの参加は、親子ともども公民館との信頼関係を育て、「お母さんの自主企画」や「小・中学生の自主企画」事業に繋がっている。地域の人々を繋ぎ、体験や交流の循環を生み出し、循環型社会の創造と地域の人材育成に寄与している。

ティータイム 14:40~15:05

3 強い翼をつくるための心と身体の栄養—子どもたちを青空に! 15:05~15:35

三浦 章嘉(大分県大分市) 大分市立吉野中学校PTA 会長
相馬 剛、但馬 環、飛田靖枝、小村美由紀、竹田幸恵(大分県大分市) 大分市立吉野中学校PTA 会員

「和」と「話」と「輪」の3つの「わ」運動を目指したPTA活動の中で、「自尊感情栄養理論」に基づいて、困難に出会っても粘り強く努力する姿勢、自信を持って立ち向かう心、相手を大事にする心などを育てるため、「身体の栄養」と「心の栄養」に着目した各種の活動をPTAの各部門毎に展開した。学校や生徒会も連携して取り組み、学校は「自己肯定感」の涵養を、生徒会は「カッチョイ活動」と称して自分たちの長所を見つける活動を行った。保護者は「子どもとの関わり方の意識度」が向上したと答え、子どもたちはそれぞれに「長所」や「人とのつながりの大切さ」を自覚したと答えている。

4 「親の学び」プログラムは未来の家庭教育支援
～ターゲットは次世代!コミュニケーションのできる親になれ!!～ 15:40~16:10

服部 正(熊本県) 熊本県教育委員会社会教育課 社会教育主事

本プログラムは、研修を受けた「トレーナー」が進行役を務める自立した親になるためのコミュニケーション講座で、「自己を見つめ、他者とかわる」能力の向上を目指している。講座の原則は通年であるが、学校や社会教育施設が活動の一環として実施する場合もある。平成26年現在で、850か所、約5万人が受講している。高卒後若年で親になるケースも多いため、次世代をターゲットにしているので、学校の協力が不可欠である。現状では、中高生の参加は数パーセントに留まっているので、授業や学校行事への組み込み、研究指定校の活用などを検討している。